

(2) 全国障害者スポーツ大会に関する調査

1. 調査概要

1. 1 調査目的

本調査は、都道府県・政令指定都市における全国障害者スポーツ大会の予選会の実施状況を把握することで、今後の方策検討における基礎情報とすることを目的とする。

【調査】データの二次的利用（質問紙調査）

(1) 調査方法

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会が 2013 年に実施した「全国障害者スポーツ大会 都道府県指定都市における予選会実施競技に関する調査」のデータを二次的に利用した。

(2) 分析対象

「全国障害者スポーツ大会 都道府県指定都市における予選会実施競技に関する調査」は、都道府県・政令指定都市の障害者スポーツ担当部署及び障害者スポーツ協会を対象に実施され、両方で相違がある場合は、電話ヒアリングにて内容を確認した。回収数は、63 自治体(回収率 94.0%)で、内訳は都道府県 47(回収率 100.0%)、政令指定都市 16(回収率 80.0%)であった。本報告書では、都道府県と政令指定都市ごとに回答を集計した。

(3) 調査内容

- ・全国障害者スポーツ大会に派遣する選手の選考規程の設置状況
- ・ブロック予選会に向けた都道府県・政令指定都市予選会の実施状況
- ・ブロック予選会に参加するチーム
- ・都道府県・政令指定都市の障害者スポーツ協会や自治体が主催する大会の参加状況

(4) 用語の定義

本報告書では、全国障害者スポーツ大会で使用している「指定都市」は、「政令指定都市」とした。

2. 調査結果

1. 全国障害者スポーツ大会の概要

(1) 開催経緯

全国障害者スポーツ大会(以下、全国大会)は、1965年より身体障害者を対象に開催してきた「全国身体障害者スポーツ大会」と、1992年より知的障害者を対象に開催してきた「全国知的障害者スポーツ大会」を統合した大会として、2001年より国民体育大会終了後に、同会場で開催されてきた。障害者の社会参加の推進、障害者に対する理解の促進を目的としており、開催当初から選手約3,000人、役員約2,000人規模で推移してきた(図表2-1)。

図表 2-1 全国障害者スポーツ大会の選手・役員数(2001年～2014年)

年度	開催地	選手数	役員数
2001	宮城県	3,195	1,747
2002	高知県	3,201	1,935
2003	静岡県	3,289	2,089
2004	埼玉県	3,089	1,995
2005	岡山県	3,238	2,009
2006	兵庫県	3,261	2,071
2007	秋田県	3,227	2,071
2008	大分県	3,202	2,030
2009	新潟県	3,231	2,164
2010	千葉県	3,238	1,925
2011	山口県	3,238	2,166
2012	岐阜県	3,165	2,150
2013	東京都	3,308	2,154
2014	長崎県	3,232	2,245

日本障害者スポーツ協会ウェブサイトより作成

(2) 実施競技

実施競技には、正式競技とオープン競技があり、正式競技は全国障害者スポーツ大会競技規則において、個人競技(6競技)と団体競技(7競技)の13競技が定められている(図表2-2)。オープン競技は、広く障害者の間にスポーツを普及するという観点から有効と認められる競技で、各大会で実施競技は異なっている。

図表 2-2 全国障害者スポーツ大会の正式競技

	個人競技	団体競技
競技名	陸上競技 水泳 アーチェリー 卓球 フライングディスク ボウリング	バスケットボール 車椅子バスケットボール ソフトボール グランドソフトボール バレーボール サッカー フットベースボール

全国障害者スポーツ大会競技規則集(2014)より作成

(3) 障害区分

個人競技における障害区分は、障害種別で細かく分類されている(図表 2-3)。身体障害は、障害種別や障害の程度で、競技成績に大きな影響を与えるので、特に肢体不自由の陸上競技、水泳、卓球では、「上肢障害」「下肢障害」「体幹」「脳原性麻痺以外で車椅子使用」「脳原性麻痺」の5区分をさらに細かく規定している。また、アーチェリー(コンパウンド[※])とフライングディスクを除く競技では、年齢区分も規定されている。身体障害では、1部(39歳以下)と2部(40歳以上)の2区分、知的障害では、少年の部(19歳以下)、青年の部(20歳～35歳)、壮年の部(36歳以上)の3区分を規定している。

団体競技では、車椅子バスケットボールのように、障害の程度に応じて、1～4.5の8段階の持ち点を決め、コート内の5人の持ち点合計が14点以下になるよう規定している競技や、グランドソフトボールのように、10人のプレイヤーのうち、全盲プレイヤー登録が4名以上、それ以外は弱視プレイヤーと規定している競技などがある(図表 2-4)。

障害区分は、全国大会のために制定された競技規則であることから、肢体不自由者の場合、身体障害者手帳を参考に、現状の障害にあった区分を選択する。従って、運動機能の障害程度から区分する国際パラリンピック委員会などの国際組織が規定する競技規則とは異なる場合がある。

※全国大会にはリカーブ部門とコンパウンド部門がある。リカーブは、リムの先端が逆反りした形状の弓、コンパウンドは、両リム先端にある滑車の作用で、引き重量が途中で軽くなる弓のことである。

図表 2-3 全国障害者スポーツ大会の障害区分と参加人数(個人競技)

		肢体不自由	視覚障害	聴覚・平衡機能障害、 そしやく機能障害、 音声・言語・	知的障害	精神障害	内部障害	合計	備考
陸上競技	区分数	23区分	3区分	1区分	1区分	-	1区分	29区分	男女別、年齢区分別。 リレーは男女混合
	2012年岐阜大会 参加者数(人)	441	190	193	1,402	-	8	2,234	
	2013年東京大会 参加者数(人)	477	158	184	1,498	-	2	2,319	
水泳	区分数	22区分	3区分	1区分	1区分	-	-	27区分	男女別、年齢区分別。 リレーは男女混合
	2012年岐阜大会 参加者数(人)	222	36	18	348	-	-	624	
	2013年東京大会 参加者数(人)	220	46	28	448	-	-	742	
アーチェリー	区分数	6区分	-	1区分	-	-	1区分	8区分	リカーブは、男女別、年齢区 分別。 コンパウンドは男女別。
	2012年岐阜大会 参加者数(人)	43	-	9	-	-	-	52	
	2013年東京大会 参加者数(人)	53	-	3	-	-	-	56	
卓球	区分数	14区分	2区分	1区分	1区分	-	-	18区分	男女別、年齢区分別。 サウンドテーブルテニス含 む。
	2012年岐阜大会 参加者数(人)	89	47	34	134	-	-	304	
	2013年東京大会 参加者数(人)	85	45	37	134	-	-	301	
フライングディスク	区分数	-	-	-	-	-	-	区分なし	アキュラシーは区分なし。 ディスタンスは、座位、立位 ともに男女別。
	2012年岐阜大会 参加者数(人)	190	34	58	420	-	-	702	
	2013年東京大会 参加者数(人)	188	34	68	479	-	-	769	
ボウリング	区分数	-	-	-	○	-	-	区分なし	男女別、年齢区分別。
	2012年岐阜大会 参加者数(人)	-	-	-	143	-	-	143	
	2013年東京大会 参加者数(人)	-	-	-	181	-	-	181	
合計	2012年岐阜大会 参加者数(人)	985	307	312	2,447	-	8	4,059	
	2013年東京大会 参加者数(人)	1,023	283	320	2,740	-	2	4,368	

注) 同一競技内で2種目まで出場可能なため、参加者数は延べ人数

日本障がい者スポーツ協会提供のデータより作成

図表 2-4 全国障害者スポーツ大会の障害区分と参加人数(団体競技)

		肢体不自由	視覚障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	内部障害	合計	備考
バスケットボール	対象障害	-	-	-	○	-	-		男女別。
	2012年岐阜大会参加者数(人)	-	-	-	153	-	-	153	
	2013年東京大会参加者数(人)	-	-	-	155	-	-	155	
車椅子バスケットボール	対象障害	○	-	-	-	-	-		車椅子使用者。
	2012年岐阜大会参加者数(人)	78	-	-	-	-	-	78	
	2013年東京大会参加者数(人)	79	-	-	-	-	-	79	
ソフトボール	対象障害	-	-	-	○	-	-		
	2012年岐阜大会参加者数(人)	-	-	-	105	-	-	105	
	2013年東京大会参加者数(人)	-	-	-	100	-	-	100	
グランドソフトボール	対象障害	-	○	-	-	-	-		
	2012年岐阜大会参加者数(人)	-	103	-	-	-	-	103	
	2013年東京大会参加者数(人)	-	102	-	-	-	-	102	
バレーボール	対象障害	-	-	○	○	○	-		聴覚障害者と知的障害者は男女別。 精神障害者は男女混合。
	2012年岐阜大会参加者数(人)	-	-	139	152	83	-	374	
	2013年東京大会参加者数(人)	-	-	132	157	82	-	371	
サッカー	対象障害	-	-	-	○	-	-		
	2012年岐阜大会参加者数(人)	-	-	-	107	-	-	107	
	2013年東京大会参加者数(人)	-	-	-	112	-	-	112	
フットベースボール	対象障害	-	-	-	○	-	-		
	2012年岐阜大会参加者数(人)	-	-	-	100	-	-	100	
	2013年東京大会参加者数(人)	-	-	-	96	-	-	96	
合計	2012年岐阜大会参加者数(人)	78	103	139	617	83	-	1,020	
	2013年東京大会参加者数(人)	79	102	132	620	82	-	1,015	

日本障がい者スポーツ協会提供のデータより作成

(4) 障害種別に見る競技数

障害種別に見る競技種目を見ると、個人競技では、「肢体不自由」「聴覚・平衡機能障害、音声・言語・そしゃく機能障害」「知的障害」が5競技と最も多く、団体競技では、「知的障害」が7競技と最も多い(図表 2-5)。個人競技では精神障害、団体競技では内部障害に該当する競技は実施されていない。

図表 2-5 障害種別に見る全国障害者スポーツ大会の競技一覧

区分	障害種別	競技名	競技数
個人	肢体不自由	陸上競技、水泳、アーチェリー、卓球、フライングディスク	5
	視覚障害	陸上競技、水泳、卓球、フライングディスク	4
	聴覚・平衡機能障害、音声・言語・そしゃく機能障害	陸上競技、水泳、アーチェリー、卓球、フライングディスク	5
	知的障害	陸上競技、水泳、卓球、フライングディスク、ボウリング	5
	精神障害	なし	0
	内部障害	陸上競技、アーチェリー、フライングディスク	3
団体	肢体不自由	車椅子バスケットボール	1
	視覚障害	グランドソフトボール	1
	聴覚障害	バレーボール(男女別)	2
	知的障害	バスケットボール(男女別)、ソフトボール、バレーボール(男女別)、サッカー、フットベースボール	7
	精神障害	バレーボール	1
	内部障害	なし	0

注) バレーボール(聴覚障害/知的障害)、バスケットボール(知的障害)は男女別で実施
 全国障害者スポーツ大会競技規則集(2014)より作成

(5) 選手選考

個人競技に出場する選手は、原則、同一競技内で2種目まで出場が可能である。ただし、団体競技に出場する選手は、個人競技には出場できない。選手選考は、都道府県・政令指定都市の障害者団体や障害者スポーツ関係者から構成される選手選考委員会で決まる。その際、都道府県・政令指定都市の障害者スポーツ大会の結果を参考とすることに加え、全国大会に出場したことのない選手を優先的に選出するなどの配慮が必要となる。

団体競技では、開催地の都道府県・政令指定都市のチームを除いては、ブロック予選会で優勝したチームが出場権を獲得する。ブロックは6ブロック(北海道・東北、関東、北信越・東海、近畿、中国・四国、九州)に分かれており、日本障がい者スポーツ協会とブロック予選実施団体(日本車椅子バスケットボール連盟、日本盲人会連合、全日本ろうあ連盟スポーツ委員会、日本知的障害者スポーツ連盟、日本精神保健福祉連盟障害者スポーツ推進委員会)が協議して、ブロック予選会を開催する。また、都道府県・政令指定都市内の登録が1チームの場合、地域の障害者スポーツの振興を図る観点から、壮行試合を予選会として開催することもある。

(6) ブロック予選会への参加形態

ブロック予選会への参加形態は都道府県・政令指定都市により様々だが、概ね、以下のように分類できる。

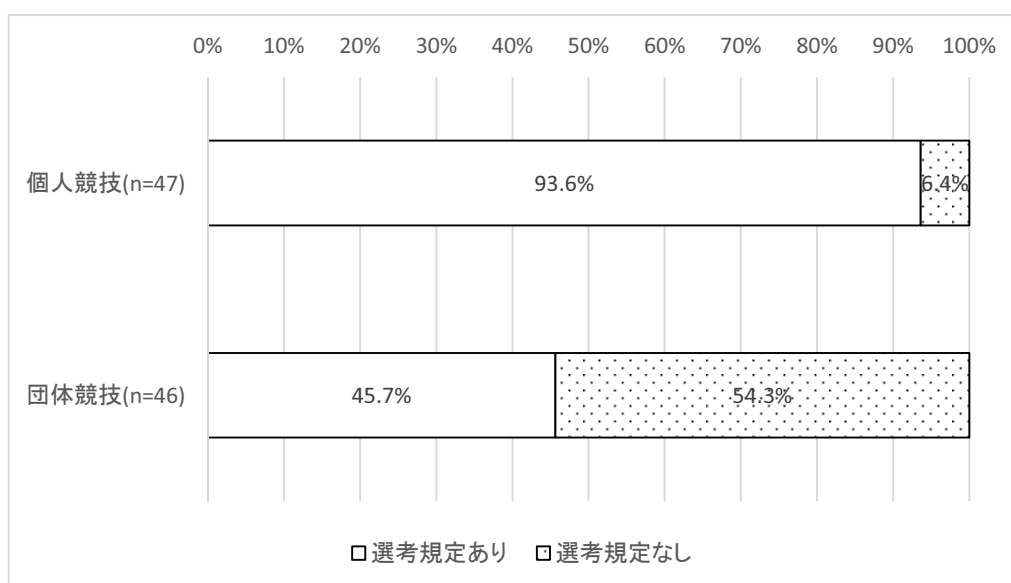
- ①都道府県・政令指定都市内の予選会で優勝したチーム
- ②都道府県・政令指定都市内の複数チームから選手を選抜して、チームを編成
- ③都道府県・政令指定都市内の単独チームを指名
(都道府県・政令指定都市内に1チームしかない場合もこれに該当)
- ④都道府県と政令指定都市のチームが合併(政令指定都市のある都道府県のみ)

2. 全国障害者スポーツ大会の予選会実施状況

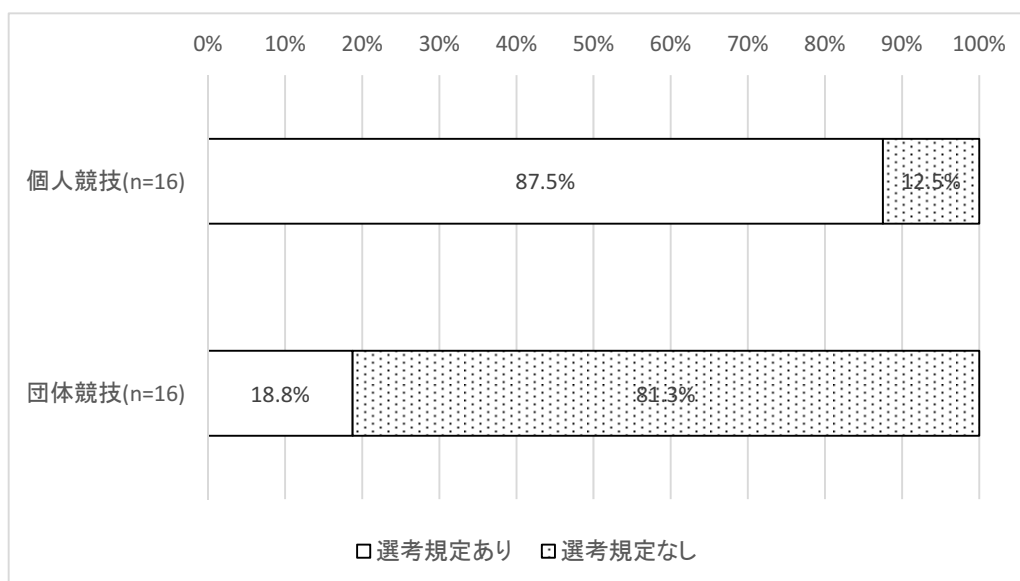
(1) 選手選考規程の設置状況

全国大会に派遣する代表選手への選考規程の有無について尋ねたところ、都道府県では、個人競技で93.6%、団体競技で45.7%に選考規程があった(図表 2-6)。また、政令指定都市では、個人競技で87.5%、団体競技で18.8%に選考規程があった(図表 2-7)。

図表 2-6 全国障害者スポーツ大会に派遣する選手の選考規程(都道府県)



図表 2-7 全国障害者スポーツ大会に派遣する選手の選考規程(政令指定都市)



(2) ブロック予選会に向けた都道府県・政令指定都市予選会の実施状況

ブロック予選会に向けた都道府県・政令指定都市予選会の実施状況について尋ねたところ、都道府県では、「バレーボール(精神)」(32)が最も多く、次いで「ソフトボール(知的)」と「サッカー(知的)」(13)であった(図表 2-8)。政令指定都市でも、「バレーボール(精神)」(10)が最も多かった。

図表 2-8 ブロック予選会に向けた都道府県・政令指定都市予選会の実施状況

	都道府県 (N=47)	政令市 (N=16)
車椅子バスケットボール	2	-
グランドソフトボール	4	-
バレーボール(聴覚・男子)	2	-
バレーボール(聴覚・女子)	4	-
バスケットボール(知的・男子)	11	2
バスケットボール(知的・女子)	9	1
ソフトボール(知的)	13	4
バレーボール(知的・男子)	6	1
バレーボール(知的・女子)	6	1
フットベースボール(知的)	8	-
バレーボール(精神)	32	10
サッカー(知的)	13	3

注) 1チームのみが参加して行われる予選会(壮行会等)は除く

(3) ブロック予選会に参加するチーム

全国大会に向けたブロック予選会に参加するチームについて尋ねたところ、都道府県では、ほとんどの競技において、選抜チームで参加している都道府県が多かったが、「バレーボール(精神)」は優勝チームを派遣している都道府県が多かった(図表 2-9)。なお、ここで言う選抜チームには、複数チームから選手を選抜する場合と単独チームを指名する場合とが含まれる。

図表 2-9 全国障害者スポーツ大会に向けたブロック予選会参加チーム構成(都道府県)

	優勝チーム	選抜チーム	県/市 合併チーム
車椅子バスケットボール(N=42)	2	37	3
グランドソフトボール(N=40)	2	33	5
バレーボール(聴覚・男子)(N=20)	1	15	4
バレーボール(聴覚・女子)(N=23)	2	17	4
バスケットボール(知的・男子)(N=31)	2	27	2
バスケットボール(知的・女子)(N=28)	3	23	2
ソフトボール(知的)(N=34)	6	26	2
バレーボール(知的・男子)(N=17)	3	11	3
バレーボール(知的・女子)(N=18)	2	13	3
フットベースボール(知的)(N=22)	3	15	4
バレーボール(精神)(N=44)	31	11	2
サッカー(知的)(N=31)	3	25	3

注) 選抜チームは、複数チームから選手を選抜する場合と単独チームを指名する場合がある

政令指定都市でも同様に、ほとんどの競技において、選抜チームで参加している政令指定都市が多かったが、「バレーボール(精神)」は優勝チームを派遣している政令指定都市が多かった(図表 2-10)。

図表 2-10 全国障害者スポーツ大会に向けたブロック予選会参加チーム(政令指定都市)

	優勝チーム	選抜チーム
車椅子バスケットボール(N=12)	0	12
グランドソフトボール(N=4)	0	4
バレーボール(聴覚・男子)(N=6)	0	6
バレーボール(聴覚・女子)(N=8)	0	8
バスケットボール(知的・男子)(N=10)	2	8
バスケットボール(知的・女子)(N=7)	2	5
ソフトボール(知的)(N=10)	3	7
バレーボール(知的・男子)(N=3)	1	2
バレーボール(知的・女子)(N=3)	1	2
フットベースボール(知的)(N=3)	0	3
バレーボール(精神)(N=14)	12	2
サッカー(知的)(N=9)	3	6

注) 政令指定都市が県と合併したチームは、図表 2-9 の「県/市合併チーム」に含む

(4) 都道府県・政令指定都市主催大会の参加状況

都道府県・政令指定都市の障害者スポーツ協会や自治体が主催している大会は、個人競技において、全国大会の都道府県・政令指定都市予選会を兼ねる場合や大会の一部競技を全国大会と同じルールで開催する場合などがある。そのような大会における参加状況を、全国大会の個人競技(陸上競技、水泳、アーチェリー、卓球、フライングディスク、ボウリング)において、三障害別(身体障害、知的障害、精神障害)に見た。

陸上競技、水泳、卓球、フライングディスクにおいては、ほとんどの都道府県・政令指定都市で身体障害と知的障害の参加があった(図表 2-11)。また、三障害別に競技を見ると、身体障害では

アーチェリー、知的障害ではボウリングへの参加があった都道府県・政令指定都市が多かった。精神障害は、全体的に参加している都道府県・政令指定都市は少なかったが、フライングディスクには約 5 割の都道府県・政令指定都市で参加があった。

図表 2-11 障害者スポーツ協会や自治体が主催する大会の障害種別の参加状況

	身体障害				知的障害				精神障害			
	都道府県		政令市		都道府県		政令市		都道府県		政令市	
	N	割合	N	割合	N	割合	N	割合	N	割合	N	割合
陸上競技	47	100%	16	100%	47	100%	16	100%	16	34.0%	7	43.8%
水泳	44	93.6%	16	100%	44	93.6%	16	100%	8	17.0%	7	43.8%
アーチェリー	39	83.0%	15	93.8%	5	10.6%	1	6.3%	3	6.4%	1	6.3%
卓球	45	95.7%	16	100%	44	93.6%	16	100%	16	34.0%	8	50.0%
フライングディスク	46	97.9%	16	100%	45	95.7%	16	100%	22	46.8%	9	56.3%
ボウリング	10	21.3%	6	37.5%	41	87.2%	16	100%	10	21.3%	7	43.8%